

ハート・オブ・ゴールド

通信



vol.32

2015年1月15日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
本部 〒701-1213 岡山市北区西辛川895-7
レジデンスアロー101
TEL&FAX 086-284-9700
E-mail:hginfo@hofg.org

URL : <http://www.hofg.org/>



スタートを待つ大勢のランナー

車いす21kmの選手



ウォーキングで子どもたちと交流



NCCCの幼い子も5kmウォーキング完歩！

アンコールワット国際ハーフマラソン＆スタディツアーア

東南アジア事務所長 西山 直樹

第19回アンコールワット国際ハーフマラソン(以下、AWHM)が、2014年12月7日(日)79の国と地域から8,271名の参加者(過去最多)を迎え開催されました。

有森代表、森脇健児さんをはじめ、日本からもたくさんのランナーが参加し、車いす、21km、義手義足、10km、3kmのカテゴリーに分かれてスタートしました。

オリンピック委員会を中心とする実行委員会も3kmのコースを変更する等、いろいろと工夫をしていました。有森代表もプラカードを持って大声を出しランナーを誘導するなど、世界中からのランナーがより楽しく快適に走れるよう気を配っていました。

また、今大会では、HG福島クラブ会員の全盲のランナー星純平さん(伴走:加藤将士さん)が、1時間25分43秒という記録で、



体育授業見学



盲人ランナー星選手と伴走の加藤さん

21km全体の中で7位に入賞するという大記録を達成されました。

星さんが走っている途中、オランダのランナーが水を差し出してくれたというエピソードもあり、AWHMが障がい者も一緒に楽しめる大会として、また1歩成長で

きたのではないかと感じます。

ハート・オブ・ゴールド(以下、HG)のスタディツアーとして日本から25名が12月4日からカンボジアを訪れました。有森代表を含む全員での交流パーティー、エイズ撲滅の願いを込めたウォーキングイベント、HGが運営しているニュー・チャイルド・ケア・センターを訪問して子ども達と交流、ランナー対象のランニングクリニック・コースチェックや小学校の体育科教育普及事業(JICA草の根技術支援)の視察、地雷博物館見学、AWHM参加等に5日間・6日間コースに分かれて参加しました。

AWHMは来年で20回目という記念の年を迎えます。主催者側も日本とカンボジアの絆としての大会にするよう盛り上げていきたいということですので、皆さんも是非ご参加ください。

スプリングチャリティディナー 2月27日(金) インターコンチネンタル TOKYO BAY にて開催

呂ヌーチャイルドケアセンター (NCCC)

プロジェクトオフィサー 磯邊 千春

10月末に1名が卒業し、17名の子どもでの生活となりました。

今年度は9月に図書コーナーが完成しました。これまで子ども達が勉強などに使っていた大部屋の床や壁、屋根を雨風に負けないよう工事し、本棚を設置しました。

(公社) シャンティ国際ボランティア会から寄贈された100冊以上の本が並び子ども達がいつでも本に触れることのできる環境が整いました。またこの図書コーナーは日曜日は地域の子どもにもオープンしており、普段なかなか本を読むことのない子ども達も本を楽しむことができています。

また今年度も日本からたくさんの団体や個人の方が訪問くださり、さまざまな形で交流できました。8月には北海道から高校生がやってきて子ども達とお菓子を作ったり一緒にソーラン節を踊ったりと、全力で子ども達とかかわってくれました。



11月には昨年に引き続き、広島の美容師峠さんのグループに、日本の美容技術でカットとセットをしていただき、たくさんの子どもがかわいい、かっこいいヘアースタイルになりました。

また12月のHGスタディツアーでは、一緒にアンコールワットウォーキングをしたり、NCCCで交流したりしました。その際、歯医者さんがボランティアで入ってくださいり、歯磨き指導と子ども達のむし歯の治療をしてもらうことができました。



子ども達は、初めて見る高校生の感動の涙に驚いたり、美容師さんからかわいくしてもらった自分にうれしくなったり、歯医者さんと向き合うだけで涙が出てしまったり、治療の後には全然痛くなかったと得意げにほかの子どもに話をしてしたり、とたくさんの普段できない経験をして、体も心も健康に豊かになっていきます。交流の後「こんなことがあった」「こんなことができるようになりたい」「次はこんな話しがしたい」と



目を輝かせて話しをしてくれます。

子ども達も日々センター内でのお手伝いや学校内・外での学習をがんばっています。引き続きご支援をよろしくお願ひいたします。

*バン・ソチエットは日本国際協力財団が運営する人材育成プログラムで1年間将来の自立に向けて勉強させてもらっています。週末には宿直兼お手伝いにNCCCに来て「お兄さん」をしてくれています。

歯科治療ボランティア

TAO 東洋医学研究会(歯科で東洋医学を広めようと頑張っているスタディーグループ)の久保 Dr、椋梨 Dr、事務局の倉橋氏の3人がNCCCの子ども達の治療を引き受けてくださいました。長年の悩みであったむし歯治療を、最新の技術と器具を駆使して行っていただきました。驚いたことは、日本国内でもこの先生方にしかできない、歯肉に注射をせず、手に鍼を刺す鍼麻酔により歯を抜かれたことで、術後も痛みがないという子ども達の返事には、見ていた者は全



員マジックを見せられたようでビックリしました。

先生達は有森代表の講演会を機にHG会員になり、アンコールワット国際ハーフマラソンにも参加し、現地を視察の結果、この治療ボランティアが実現しました。

カンボジアでは学校内に駄菓子屋があり、常に子ども達は甘いものをして口にしている状態で、ほとんどの子どもがむし虫歯を持っています。予防も行き届いてなく、プレーク染色によるブラッシング指導も合わせて実施していただきました。

国際貢献口一カル・トウ・ローカル技術移転事業（岡山県国際課）

チュート・スライノッヂ（New Child Care Center スタッフ）さんは、7月～11月までの4ヶ月間、養護施設の運営方法や保育技術習得のため来岡して研修を受けました。HGに協力している小学校・高等学校で出前授業をしたり、国際

交流センターで「カンボジアの若者たちの国づくりにかける夢」と題して話しました。また、HGのチャリティイベントに参加したり、岡山の文化遺産などを研修視察し多くの活動を通して幅広く日本を体験し帰国しました。



美容師を目指して パン・サオピア

専門学校での勉強は、どんどん難しくなっていきます。9月に前期テストがありました。実技・筆記試験は、全科目何とかできました。5月から4人の先生に補習をしてもらったお陰です。とても感謝しています。10月から後期が始まり、学科も増え、実技もワインディング・ウェーブ・カット・セットを習い始めています。カットは初めてやったのでちょっと怖い気持ちもあったし、難しいなど感じました。やったことがないので、練習では自分の指を切ってしまうこ

*研修受入機関

岡山県県民生活部国際課
一般財団岡山県国際交流協会
社会福祉法人南野育成園
社会福祉法人旭川荘乳児院
社会福祉法人備作恵済会若松園
特定非営利活動法人岡山NPOセンター
受入ありがとうございました

ともありました。

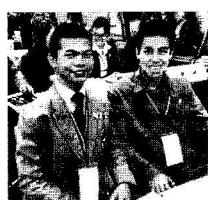
勉強のほかに、先輩の結婚式に出たり、高野山の子ぼんさん修行（子どもに親元を離れて礼儀作法や規律を身につけてもらう合宿）のお手伝いに行って座禅を経験したりしました。日本の伝統文化に触れることもしています。



美容室カモンRでは、現在週1日研修をさせてもらっています。休日でお客様が結構来られるので、頭が回らなくなるほど忙しいです。私はいろいろな仕事ができる方が好きなので、忙しくても嬉しいです。いろいろやればやるほど楽しくなってきます。

HGむつみ日本語教室

2014年度の生徒数は43名です。12月5日はHGスタディツアーのアンコールウォーキング大会に参加。15日は岡山学芸館高校の研修旅行の受け入れなど今年も日本の方達と親しく交流ができました。留学3期生のチョンパーは日本語検定2級合格。5期のワンニダー



は日本人経営の菓子店に就職。7期のセーラーは帰国後高校を出て調理師専門学校に入學し料理人になるため頑張っています。現在留学中のスンナラーは学業のほか、クラブ活動（和太鼓と陸上部）にも励んでおり夏には日本語検定3級にも合格し、日本の生活を有意義に過ごしています。

チュート・スライノッヂより

4ヶ月間あっという間に過ぎてしまいました。日本の養護施設で研修し、たくさんの人から、たくさんの事を学びました。研修場所は、どこもカンボジアの施設と比べてみると専門的で、よく考えられて運営されていました。突然、外国からやってきた私を先生方や子ども達は温かい気持ちで迎えてくれました。

困っている子ども達を助けてあげたいという気持ちで、カンボジアのスタッフになった私にとって、この4ヶ月間の勉強と経験はこれから力になりました。とても大切なことを数えきれないくらいたくさん学びました。これをNCCCで他のスタッフにも話して施設に取り入れて、帰国後皆様から教えていただいたことをもとに頑張りたいと思います。自分の人生にも大きく影響がありました。私はまだ成長できると、どんどん前向きの気持ちが出てきました。

最後に、このような研修のチャンスを与えてくださった岡山県並びにHGの皆様に心からお礼申し上げます。

11月には岡山ドームで学園祭がありました。私のクラスはフレンチパンを作って売りました。楽しかったです。また、NCCCのスタッフで友達のスライノッヂが研修のため4ヶ月岡山に来っていました。最後の1週間、一緒に過ごすことができて、お互いなんでも話し合うことができたので本当に楽になりました。

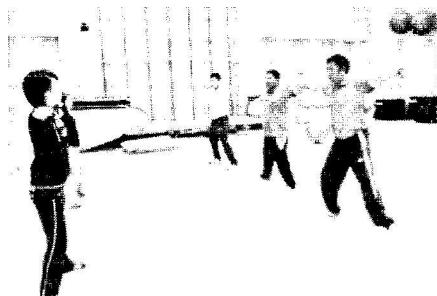
来年は、後期試験に合格して2年生になれるよう頑張っていきます。

多くの方の励ましが私の力となっています。これからも応援お願ひいたします。

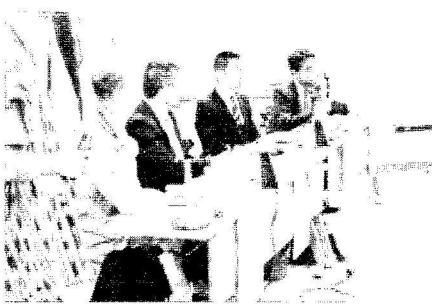
カンボジア王国小学校体育科教育普及事業

10/1～10/10 本邦研修を振り返って

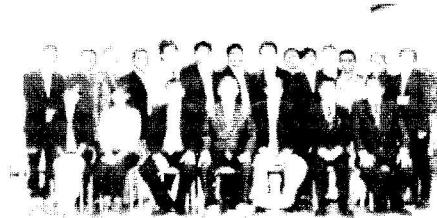
西山 直樹



リズム運動を筑波大学の学生から学んでいる NT



JICA 地球ひろばで開催したクロス
トークセミナーの様子



光が丘春の風小学校での体育授業観察の後の集合写真



カンボジアの小学校体育について今後進める方
向性と課題を協議する NT

独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）との共同事業で進めている「カンボジア小学校体育科教育普及事業」の活動として、2014年10月1日から10日間本邦研修を実施しました。今回の参加者は教育・青年・スポーツ省学校体育スポーツ局長（10/1-10/3のみ参加）を始め、同所属のナショナル・トレーナー（以下、NT）12名です。

本邦研修の目的は大きく2つあり、1つは日本の体育科教育の実態を観察し、本邦研修終了後に、彼らが現実的に何をカンボジアに適用できるかを考え、それを実際にカンボジアにおいて反映させていくこと。そして2つ目は、彼らが今まで実践してきた普及活動を日本の方々にも知ってもらい、自分たちの自信へと繋げることです。

10日間の滞在の中で3つの小学校と1つの中学校、文部科学省、国立教育政策研究所、筑波大学、JICA

地球ひろばを訪問し、それぞれに以下のことを学びました。小学校・中学校観察では、日本の体育授業で導入されている新しい種目や先生の生徒をコントロールする効率性の高さに刺激を受け、先生に多くの質問をしていました。また、文部科学省、国立教育政策研究所では、日本の体育科教育の制度的な成り立ちやあり方の説明を受け、現在のカンボジアの体育科教育普及で課題になっている地方行政官の役割や、指導要領や指導書の改定の作業手順等について確認しました。さらに筑波大学では、現在の自分たちの能力を再確認するための模擬授業、リズム運動のワークショップ等を実施し、加えて現在のカンボジアの小学校体育の状況を整理し、筑波大学の教授より専門的知見による課題解決に向けた方向性について指導を受けました。

最後に JICA 地球ひろばで、クロストークセミナーを開催し、NT の

Dok Kirirath 氏に質問する形式でカンボジアの小学校体育科教育普及が開始した経緯や事業実施に際し、どのような問題や課題があり、それをどのように解決してきたかを説明しました。セミナーには71名の方が参加し、初めて聞くカンボジアの体育の話や今まで知らなかったカンボジアの歴史や関係している人たちの実体験に基づく話に耳を傾けていました。

今回研修が終了し、学んだ成果を反映させるために12月25日に教育・青年・スポーツ省の大臣に事業進捗を報告しました。大臣は古い体育と新しい体育の違いに大変関心を持ってください、現在のプロジェクトの成果が継続するよう、教育・青年・スポーツ省として取り組んでいくことを約束くださいました。

ボールをいただきありがとうございました

体育普及事業とサッカーフェスティバル、運動会で使用するため12月のHGスタディツアーや岡山市芸術文化センターの研修旅行でボールを持ち込んでいただきました。子ども達の喜ぶ顔が目に浮かびます。

<ボール支援団体>

JVA バレーボールバンク エイコースポーツ（岡山）
岡山シーガルズ モンキーズ（株）モルテン
※ HG はカンボジアの学校で体育授業に使うボールを
継続して集めています。ご協力（なるべく新しいボ
ール）をお願いします。

第9回 HGチャリティ耐寒登山

大阪で唯一降雪時に樹氷・霧氷が楽しめる金剛山でお腹一杯マイナスイオンを満喫しませんか。会員、友人、ご家族の皆様のご参加をお待ちしております。

【日程】 2月15日（日）

【集合場所】 金剛山登山口 徒歩2分、さわやかトイレ前駐車場

【集合時間】 10時 出発 10時30分

【参加費】 チャリティ募金とさせていただきます

一般1,000円、学生 500円、中学生以下は無料

【持ち物】 着替え、飲料水、おやつ、アイゼン（降雪時）

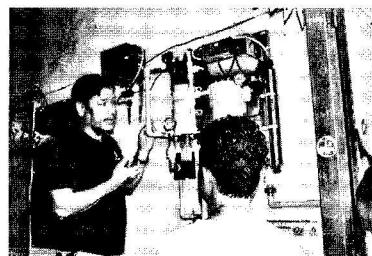
現地解散 気軽にご参加ください。

尚、当団の怪我等につきましては個人の責任に於いての参加となります。

小学校に浄水器設置

プロジェクトオフィサー 大澤 一夫

岡山南ロータリークラブ様から、2014年度は「子ども・命・水」に気持ちを込めて活動したいとのお話をHGに寄せられました。HGは小学校体育科教育を進めていますが、カンボジアでは飲用に適した水がないため、従来から小学校に浄水器を設置したいとの思いがあり、小学校への浄水器設置事業が始まりました。2014年9月、カンボジアのシェムリアップ州にあるチェイ小学校に、安全な飲み水を提供するための浄水器と水飲み場を設置しました。多くのカンボジアの小学校と同様に、チェイ小学校にも井戸があり、トイレや手洗い用に井戸水を利用していますが、その水はそのまま飲めるような衛生状態ではありません。そこで井戸水を浄水器（アメリカ製）で浄化すること



とで、子ども達は安全な水を思う存分に飲めるようになりました。カンボジアは一年中暑い気候なので、運動の後はどうしても喉が渴きます。今まで家から水筒に水を入れて持ってくるか、売店で売っている水を買うしかありませんでしたが、これからは思う存分に学校で水を飲めるようになりました。浄水器のフィルターは、学校の先生達が毎日チェックし、汚れがあれば洗浄して、安全な水が提供されるように監視しています。



HGでは体育の普及活動を後押しするために、浄水器や水飲み場の設置を今後も進めていく予定です。12月にはチェイ小学校に続いて、スバイリエン州のピートゥヌー小学校にも設置しています。

アジア事務所でのインターン活動

筑波大学大学院 木下 紗乃

私が初めてカンボジアに訪れたのは2013年3月、筑波大学が企画したグローバル人材育成ツアーに参加したことがきっかけでした。私は人生の大半を水泳競技に費やしていましたが、実力主義の日本のクラブ制度に幻滅した時期も多々ありました。スポーツに対して複雑な心境を抱きながら訪れたカンボジアで、単純な運動を心から楽しんでいる子ども達に出会い心を打たれました。



それ以来「将来を担う子ども達の選択肢を増やしてあげたい」と強く思うようになり、翌年も同じツアーに参加し、本格的に開発課題と体育・スポーツの関係性に興味を持ち始めました。しかし、同時に短期間のツアーで観察・理解することに限界を感じ、短期滞在ではなし得なかった、詳細を見て知る為に今年の9月から半年間、HGでインターンシップをしながら学ぶ決意をしました。現在は、主に小学校の体育科教育の普及事業に携わり、NGO職員の苦悩と喜びを日々目の当たりにしています。特に、これまでなかったものを一から作り上げて普及していくことがどれだけ大変で、膨大な時間と労力を必要とするのかを学んでいますが、事業に関わるすべての関

係者が「体育で国を変えることができる！」と信じていることに勇気をいただいています。

日常生活では、今のところ大きな怪我も病気もなく、人々の優しさに触れながら1日1日を過ごしています。衣・食・住、どの点をとっても、日本にいた時より充実しているかもしれません。

業務時間外では、オリンピックスタジアムのプールに出向き、カンボジアでの水泳の様子を観察しています。一般開放の時間では、多くの子ども達が楽しく水に入っている姿を見て、泳ぎ切るだけが水泳の目的ではなく、プールが水と親しむための重要な場となっていることに気がつきました。

これらの発見から、自身の特異性を提供することで「金銭ではない喜びや活力が得られるのでは」と考えるようになりました。この思考は三度のカンボジア滞在から得た現在の答えです。

インターン活動も折返し地点にきました。様々な可能性を再確認させてくれたカンボジアで活動できることに喜びを感じつつも、残りの時間で自分のできることを見付け、行動し、今度は将来を担うカンボジアの子ども達に還元していきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



3.11 子ども animo プロジェクト

昨年に引き続き、(株)ロード&スカイ様からの支援をもとに、JSファンデーションと協力して「太陽光街路灯」を福島市の小学校（蓬萊小・佐倉小・余目小）に3基ずつ設置いたしました。真っ暗な中、体育館に行く時LEDライトが明るく照らしてくれて、とても安全になったとお礼状が届きました。

宮城県では、140年の歴史を持つ東松島市立野蒜小学校の先生方と相談して、秋に全校遠足のバス代、QU検査、卒業アルバム代など、保護者にかかる資金を支援しています。学校は仮設校舎ですが、たくさんの行事が復活し、地域や保護者の方々とともに子ども達が元気に成長している様子が本部に届きました。

第4回 親子チャリティマラソン in おもちゃ王国



9月28日（日）、快晴のもと、ランナー170名が爽やかな汗を流しました。ボランティアスタッフとして第1回目からサポートいただいているインラインスケートチームALIVEのメンバーと保護者の方、そして、今回は岡山シーガルズや吉備国際大学Charmeのスタッフ、メンバーがゲストランナーとして参加し、大会を盛り上げてくれました。

大会からの支援は、カンボジアの小学校への鉄棒設置に充てられます（これまで6州11校に設置）。



* HGの活動にご支援いただけるチャリティイベントを募集中！

第8回吹田中の島

チャリティラン

大会実行委員会 松村 政子



9月14日（日）、昨年の台風接近の荒天と打って変わり、透き通った晴天の下で開催ができました。ヴァイオリン奏者の横山亜美さんの演奏に続き、参加者の皆さん3時間走とゲームリレーの駆けを十二分に楽しみ、そして家族や仲間との絆を強くされたことと思います。

この大会が無事開催、終了できましたのもゲストランナー、後援、協賛、協力団体と多くのボランティアの方々のお陰と感謝申し上げます。

尚、当大会からの支援金はHGに寄付いたしました。

詳細は「吹田中の島チャリティラン」のホームページでご覧ください。

ESDに関するユネスコ

世界会議



プレゼンテーションを行う小学生



11月4日～8日まで岡山市でESD世界会議が開催されました。HGは長年、ESDの国際理解教育の分野でいくつもの岡山市の学校と活動してきました。

「幸せってなんだろう」。第3藤田小学校と政田小学校が平素取り組んでいる活動を発表しました。これにアフリカ・ヨーロッパ・アジア等世界の参加者から称賛の言葉が寄せられました。この活動が子ども達の人格形成に入り込んでいることを確信し、交流と実践の重要性をますます感じました。子ども達が明日の世界を作ります。持続可能な、平和な世界を作るために、今できることを子ども達と一緒に継続してやっていかなければと思いました。

ボランティアリレー

クメールの微笑みに感謝

神奈川県在住 池尻 敏広

アンコール遺跡群を目的に私が初めてカンボジアを訪れた1994年は内戦終結直後で、プノンペンは夜間外出禁止、シェムリアップもメジャーな遺跡以外は地雷のため立入禁止の場所ばかりの頃でした。街には傷痍者を中心に物乞いがあふれ、言葉を失う程の貧困がそこにはありました。

「自分に何かできないか?」帰国後、カンボジアのことは常に頭にありました。ある時陸上雑誌で『アンコールワット国際ハーフマラソン』の存在を知りランナーとして参加。そこでHGの存在を知り、その後入会しました。決め手は、スポーツからのアプローチであったこと。当時、物質的な支援がほとんどだったボランティア活動の中で「自立支援」をコンセプトとしているところでした。

その後、国内イベントのお手伝いをし、毎年マラソンツアーパートicipantする一方、9年前から、毎年夏休みを利用して、個人でカンボジアを訪れるようになりました。カンボジアへの渡航が20回を超えた今、訪れるたびにNCCCの子ども達に癒され、現地で活動されている他のNGO・NPOの方々と知り合い、この国のいろんなお話を聞かせていただき、活力を一杯にして日本に戻っています。「自分に何かできないか?」で始まったボランティアが「させてもらっている」に変わり、今では得られるものの方が遥かに多いと感じています。その恩返しの意味もあり、今年から、ハート・ペアレント制度で、6歳の男の子の両親にもなりました。

実際に現地に入って活動されている方からは、「何かをしてあげている」というスタンスは感じられません。それは、活動によって得られる、経験や知識、そして笑顔や元気に感謝しているからだと思います。

あるNPOの方から、ボランティアというと、よく「相手の目線に立って」と言われますが、それは自分が上にいることを前提にした考え方で、大切なのは互いに協力し合いながら、共に成長して行こうとすることですよ、と教えられたことがあります。確かに「何かをしてあげている」というスタンスをとると、見返りを期待、ともすれば強要することになります。

私は特別な技術や資格を持っているわけでもない、ただの会員ですが、これからも有森代表の言葉「できる人が、できることを、できる限り」を自分なりに実践していきます。

皆さんも是非、国内外の活動に実際に参加され、新しい出会いや、大きな感動を得てください。2015年、アンコールワット国際ハーフマラソンは20回の記念大会を迎えます。是非、ご一緒しましょう。

事務局からのお知らせ

●スプリングチャリティディナーへの誘い

毎年HGの活動報告をさせていただいているパーティーガ本年も2月27日(金)、インターベンチナルTOKYO BAYにて開催されます。(詳細は、同封の案内状)

●ボランティア・インターン募集

本部事務局での事務手伝いと国内のイベント時のボランティアを募集しています。又、カンボジアの活動現場でインターンを希望される方は事務局にお問い合わせください。

主な活動報告(2014年後半)

- 7/11 岡山市立伊島小学校出前授業
7/22-11/18 岡山県技術移転事業来岡(NCCC職員)
8/30 HG 長岡クラブ総会・交流会
9/8-3/10 筑波大学インターン受入(プノンペン)
9/9 倉敷平成ライオンズクラブ例会
9/9 HG 福島クラブ総会・交流会
9/14 第8回吹田中の島チャリティラン(大阪)
9/16 岡山市立曾根小学校出前授業
9/18,11/25 スカイプ国際交流
9/28 たまの親子チャリティマラソン in おもちゃ王国(岡山)
10/12 研修員ふれあい講座(岡山)
11/4 岡山市立西大寺小学校出前授業
11/7-11/8 ESD世界大会パネル出展(岡山)
11/11 岡山市立平福小学校出前授業
11/11 岡山学芸館高校・清秀中学校出前授業
11/16 第33回山陽女子ロードレース大会(岡山)
11/20 練馬区立光が丘春の風小学校出前授業
11/30 第3回富士山マラソン(山梨)
12/4-9 HG スタディツア(カンボジア)
12/5 アンコールウォーキング大会(シェムリアップ)
12/7 第19回アンコールワット国際ハーフマラソン
12/21 第5回カモンRチャリティーカット(岡山)
12/26 ピートゥヌ小学校運動会(スヴァイリエン)
12/27 プレアシアヌーク小学校運動会(スヴァイリエン)

主な活動予定(2015年前半) 変更あり

- 1/15 岡山学芸館清秀中学校カンボジア研修旅行受入(シェムリアップ)
1/31-2/1 カンボジア・ジュニア・サッカー大会(プノンペン)
2/27 チャリティーディナー(東京)
3/1 第35回篠山ABCマラソン(兵庫)
3/2-3/25 筑波大学カンボジア研修受入
3/9 第8期留学生帰国(予定)
3/21 淀川国際ハーフマラソン・交流会(大阪)
3月 東日本スタディツア(未定)
4/19 第25回かすみがうらマラソン(茨城)
東日本会員交流会(東京)
5/17 みしま西山連峰登山マラソン(新潟)
5/31 Arimori cupマラソン大会(北海道)
6月 HG総会・理事会・西日本会員交流会

●物資輸送ボランティア

カンボジアに行かれる方で、日本から、また現地からの物資を届けて下さる方を募集しています。

出発の空港で受け取って、到着の空港でHG関係者に渡していただける方はご連絡ください。

●新スタッフ紹介

本部事務局に近藤治幸(9月より)、有森円(10月より)の2名のスタッフが加わりました。

皆様よろしくお願いします。